

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人かたばみ会	代表者	佐藤 淳 司	法人・事業所の 特徴	事業所は光ヶ丘の高台に位置し、窓からは海岸線も見え、日本海に沈む美しい夕日を眺めることができる。住み慣れた自宅でいつまでも過ごすことができるように、生活リハビリや必要な介護をご家族と一緒に作り上げています。また、重度の要介護状態になっても同法人で運営する特別養護老人ホームかたばみ荘と連携を図り、支援が可能。
事業所名	多機能施設かたばみ荘	管理者	村上 意知朗		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	人	2 人	人	1 人	1 人	人	3 人	人	8 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	地域密着型サービスにとって重要な要素である地域資源を知る。 酒田市社会資源ファイル「おたすけガイドブック」を読む。	・運営推進委員の皆様(5名)から、A.事業所自己評価を確認していただき、具体的に取組んでいるとの評価をいただく。 ・日々業務にあたりながらアセスメントや社会資源ファイルを読む時間を作るのも大変かと思えます。内部研修の時に集中して「地域資源」についての情報を得る機会を設けるのは良いと思いましたが、との評価をいただく。	・自己評価の中で「なんとかできている」が6～10割とあり安心しています。反面、利用者の評価はどうでしょうか。利用者の声支援に反映されているのかが気になります。個々のニーズへの対応は難しい面があると思いますが、常日頃の対話がポイントになると考えています。	各利用者家族に事業所に対する意識調査アンケートを実施し、結果を共有して運営に反映させていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	利用者が居心地の良い環境で(ホール、テーブル、椅子、居室、お風呂場、トイレ等)、ゆっくりと過ごしていただく(雑誌、写真、壁紙、観葉植物、お茶出し等)サービスを提供する。	・玄関から入ると、廊下、机の配置、絵画などがあり「きれいだな」と毎回感じています。今後も美化に努めていただきます、との評価をいただく。 ・いつもきれいに整頓されています。部屋の中も明るい空間になっており、過ごしやすと思います、との評価をいただく。	・「事業所に入りやすい工夫」について、具体的な取組みを教えてください。 …玄関周りの整理整頓のほか、玄関ポーチの落ち葉掃除や積雪時の雪掻きなど、美化活動が地域の方に見える形となっている。	事業所での活動が閉鎖的にならないよう、利用者を交えた玄関ポーチの掃除や花の水やりに努め、活動が外部に見える施設を目指す。
C. 事業所と地域のかかわり	利用者が近所に買い物に行ける様に支援する。	・運営推進委員の皆様(4名)から、具体的な取組みについて実施できていると評価をいただく。	・コミセンに出向いてコミセンの会議や地域公民館の会議に出て、もっともったかたばみをPRすべきであると思えます。 …松陵コミセンをお借りして第5水曜日にかたばみ会で福祉の講座を開催しており、各事業所の紹介や活動報告をしている。 ・「酒田市社会資源ファイルおたすけガイドブック」を活用し、対応している姿が想像できます。	コロナ禍で数年見送っていた、民生委員、利用者家族、運営推進委員をお招きする「地域交流会」を再開する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者と一緒に馴染みの地域イベントや行事へ参加する。	・できる範囲内で工夫をやっていると思えます、との評価をいただく。	・項目Cでの意見のとおり、コミセンに出向いて地域の方から関心を持ってもらうのが良いかと思えます。 ・ご近所の心配な方がいましたら、ぜひ包括なかまちまでお知らせいただけたらと思います。	近隣に住む友人知人の支援を受けている独居の方が多いため、訪問時や電話連絡などで情報共有を図り、本人の暮らしを共に支えていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域で困っている方々の情報がある際は、必要な支援へ繋がる様に共有と対応をする。	・今後も運営推進会議内で地域で困っている方の情報を共有していく。	・運営推進委員の皆様(5名)から、運営推進会議で事業所の取組みが解かりやすく説明されているか、運営推進会議で出た意見を改善につなげているか、について評価をいただく。	事業所の地域での取組みや、送迎訪問時に見聞きした地域の問題を運営推進会議内で報告し共有を図る。
F. 事業所の防災・災害対策	委員の皆様から事業所の防災訓練の状況を確認していただく。	・コロナウイルスが5類に移行したこともあり、去年10月に実施した消防署員立ち合いでの非常災害訓練に運営推進委員の皆様に参加していただき、事業所の防災訓練を見学していただいている。	・コロナウイルスが5類に移行したこともあり、去年10月に実施した消防署員立ち合いでの非常災害訓練に運営推進委員の皆様に参加していただき、事業所の防災訓練を見学していただいた。 ・訓練の重要性を伝えつつ継続してください。 ・夜間の勤務職員が少ないので、災害時に近くに住んでいる人からボランティアで手伝ってもら(車椅子を押してもらうなど)組織作りを進めていく(手伝ってもら人にもその気になってもらう)。 ・非常災害時の近隣住民の方々からの協力について具体的に考えていく必要があると思われます。 ・地域に住む高齢者や体が不自由な方への「個別避難計画」を立てることが求められていますが、支援する側の高齢化により容易でない状況なため、出来る範囲内で自治会で取り組んでいるところです。 ・「個別避難計画」登録者リストは包括なかまちで所有していますが、登録者個人の詳細については自治会長が把握しているため情報を共有してもらう格好となっています。 ・非常時要援助者の各ケアマネジャーからは「個別避難計画」に登録して欲しいとの要請がありますが、連携の取り方が難しいと感じます。 ・自助・公助・共助とありますが、災害時には共助が要となると思います。より地域での連携を強固にする必要があると感じます。	委員の皆様から事業所の防災訓練の状況を確認していただき、また、事業所として市の総合防災訓練にも参加していく。